

発行 / 市民活動サポートセンターいなぎ
運営協議会

事務局 / 〒206-0802

稲城市東長沼2112-1

稲城市地域振興プラサ1F

市民活動サポートセンター内

電話042-378-2112

FAX042-378-6971

E-mail: info@i-inagi-support.org

http://www.i-inagi-support.org/

「市民活動サポートセンター」の運営は、これまで、市の公募に応じた20数名の市民で組織する運営協議会が担ってきました。

運営協議会は、この組織をNPO法人化するために準備を進めてきましたが、11月21日に東京都からの認証が下りました。

今後は、「特定非営利活動法人 市民活動サポートセンターいなぎ」として、これまで以上に、頑張りたいと考えています。



ところで、私たちが法人格を取得しようと考えたのは、次のような理由からでした。

あなたもぜひ会員に・・・

「サポートセンターいなぎ」がNPO法人になりました

◆サポートセンターの運営や活動に、できるだけ多くの方に、仲間（会員）として参加して欲しかった。

◆会の運営を組織的にも、財政的にも、将来にわたり継続していくためには、自立した組織づくりが必要であった。

◆契約をする場合、任意団体よりも法人の方が信頼性が高い。

◆会運営の透明性・公平性をより確保するためにも、法人格を取得して、そのことを明確にしておきたかった。



これからは、会員になることで誰もが主体的にサポートセンターの運営に関わることができるようになります。

例えば、サポートセンターでは、これまで市民活動フェスティバルやNPO講座、金曜サロンなど、様々な事業を行ってきましたが、それらの事業に対しても会員とし企画段階から参

加していただくことで、事業に膨らみをもたせることができるようになります。



会員には①正会員（個人及び団体）、②賛助会員（個人）及び③賛助会員（団体）があります。

正会員と賛助会員の一番大きな違いは、正会員が総会において議決権を持つのに対し、賛助会員は持たないということです。

入会するには、入会申込書に必要事項を書いてお申し込みください。希望すれば、定款で定める特別の理由がない限り、誰でも入会することができます。

年会費は次のとおりです。

① 正会員（個人及び団体）

3,000円

② 賛助会員（個人）

1口1,000円で1口以上

③ 賛助会員（団体）

1口1,000円で5口以上

※10月以降に入会した場合、その年の会費は上記の半額

写真展示会

いなぎの水田紀行

（3ページを参照）

■と き / 12月22日～1月15日

■ところ / 地域振興プラサ1F

市民活動サポートセンター

■主 催 / フォトクラブいなぎ

（連絡先 小林 ☎331-2838）



開催ほうこく

—NPO講座—
はじめよう
身近なNPO活動

講師：岸本幸子さん
(NPO法人パブリック
ハブセンター事務局長)

開催日：10月13日

講師の岸本さんは、講座や相談などNPOの活動を支援しているNPO法人の事務局長をしています。そのため今回の講座でも、NPOに関して様々な点から分かりやすく説明していただきました。

●NPOとは

- ①市民の自発的な参加と支援を基礎にしている
- ②営利を目的にしない



▲熱心にメモをとる受講者

- ③社会的な課題の解決に向けた活動である
- ④組織的で継続的な活動
- ⑤社会に働きかけを行う
- ⑥民間の団体

のことをいいます。

●ボランティアとNPOの違い

ボランティアは個人の活動であり、NPOは組織（事業体）のことをいいます。ボランティアの活動を生かすための組織がNPOなので、両者がなくとも機能しません。これは、阪神大震災での復興活動の経験が生かされたものです。

●グループワーク

後半のグループワークでは、自治体、企業、NPOの違いを参加者みんなで話し合いました。

具体的なケースとして、お年寄りにお弁当を届けるサービスを想定して、それぞれが実施した場合の違いについて考えてみました。

行政などの自治体は公平さという点で優れています。一方、企業はメニュー開発や多彩なサービス提供などで優れています。



▲実体験に基づく話には熱が・・・



▲グループワークでケーススタディ
また、NPOは今まで無かったサービスを作り、当事者のニーズに近いサービスを提供することに優れています。



これからのあり方を考えるにあたっては、このようなそれぞれの特徴を生かした活動や仕組みが求められているのではないのでしょうか。

(川本)

十一月

金のなる木

フラントハンター “植物ものがたり”

話し手：川原昭太郎さん

コロンブスがアメリカ大陸を発見したのが1492年、いわゆる帆船時代です。

それはよく知られていることですが、川原さんがおっしゃるには、大陸を発見したことよりも、そこにあった様々な有用植物を見つけ出し、それを自国に持ち帰ったことに価値があったとのこと。例えば、トウガラシ、ジャガイモ、サツマイモ、トマト、カボチャなどです。

当時は種でなく、植物そのものをガラス箱に入れて持ち帰ったそうですが、なるほどヨーロッパには、ばかでかい温室があるのは、その名残なのでしょうか。

その後話は、世界じゅうの様々な植物戦略のことに及びましたが、「金のなる木」ってそういうことだったのかと納得。稲栽培を辿ると日本の歴史が分かるように、世界史もそういう視点で見直してみたら、よく理解できるようになるかも知れません。実に興味の尽きない金曜サロンでした。 (小林)

十二月

『介護のまちづくり特区』

よもやまばなし

話し手：石田光広さん

12月の金曜サロンスペシャルは「介護のまちづくり特区」として注目をあびている稲城市の現状を、高齢福祉課の石田課長にお話してもらいました。

いま稲城市は有料老人ホームが急増していますが、実際に入居している方の2/3は稲城市民ではないのです。しかし稲城市が目指しているのは、この稲城という地域に暮らしている人が、最後まで稲城で安心して暮らし遂げることができまちづくりなのです。

そのためにはどのような方策が必要であるか、という観点から特区の提案となりました。

現在サテライト型特別養護老人ホームの整備・介護のまちづくり地域システムの構築という構想を持ち、日々実現に向けて作業をしているとのこと。これには地域力(コミュニティ力)と行政とが一体となり進めていくことも重要です。その一環として市内各地で介護予防教室を実施して成果をあげており、大会を開くまでになりました。

他にも市民の協力を得ながら各施策を進めていますが、土地問題など難しいこともあるそうです。今後の稲城市の展望を知ることができ、充実した時間を過ごすことができました。 (秋廣)

がんばってます

8



▲坂浜学園通りから

「いなぎの水田紀行」というタイトルの写真展が当サポーターセンターで今月から開催されます。市内の7地区で撮った稲作風景は、「フォトクラブいなぎ」のメンバー7名が、一年かけて激写した力作です。

景観や文化財の記録写真で地域おこし

フォトクラブいなぎ

代表：小林正威さん

真「高層マンションを背景にした稲刈りの景観」など、どれを見ても稲城には「こんなに素晴らしい風景や自然の豊かさ」が、まだ残っていたんだ」と実感させられる写真ばかりです。

撮影された場所は、平尾の「狛谷戸(むじなやと)」、坂浜の「小田良(こだら)」、若葉台の「上谷戸(かみやと)」、大丸や押立の水田などで、それらが展示される予定です。

同会の目的は「変わりにくいいなぎの景観や文化財を写真で記録し、地域文化に寄与する」ことです。

毎月、第1水曜日の撮影会はテーマを決めて楽しく行っています。

これまで、「正月のドンド焼き」や春の桜、夏祭りなどを撮ってきました。会長の小林さんは、「ゆっくり、のんびり活動していきます。秋の紅葉や一駅一景なども撮ってみたいですね」と抱負を話してくれました。

(坂井)

運営協議会

ほうこく

役員会・全体会

10月10日(火)と11月13日(月)に役員会と運営協議会を開催し、次の議題について協議した。

10月10日.....

- ・各分会、事務局、各実行委員会報告
- ・サポーターバンク登録者 1名
- ・メンバー研修について
- ・ニュースレター10号発行と

あ い
Iのまちいなぎ市民祭に
サポートセンターも出展



11号編集について

11月13日.....

- ・各分会、事務局、各実行委員会の報告
- ・利用登録団体認証について
 - ①特定非営利活動法人「はじめのいつぽ」
 - ②語りの会 いそいばた
 - ③稲城の里山と史蹟を守る会以上3団体
- ・金曜サロンスペシャルについて
- ・「市民活動サポートセンターいなぎ」のNPO法人化後の運営について

金曜サロンスペシャル

■1月10日(金)

- ・話し手：末松茂孝さん
- ・テーマ：「新しい第2の人生」
～神主もおもしろいよ～
サラリーマンから農業高校の先生に、そして定年後は神主に、そんな多彩な人生体験を話していただきます。

これからの事業予定

利用登録団体交流会

- 2月17日(土)
午後2時から
- 話し合いのテーマ・・・
どうしたら団体相互の「つながり」を作り上げることができるか
※登録団体には改めて参加案内をさしあげます。

出張「サロン」はおおにぎわいでした



編集後記

稲城が結構おもしろい！「Iのまちいなぎ市民祭」の中で行われたイベントの一つである、民謡歌手伊藤多喜雄コンサートに行ってみた。

太鼓、尺八、三味線、ドラムが奏でるサウンドをバックに歌う民謡の数々は迫力満点であった。伊藤さんは、ステージをより盛り上げるために、歌い手と楽器奏者は、互いにその日の気持ちや呼吸を読み取りながら演奏しているという。

また幕前の子もたちの太鼓の演奏についても伊藤さんは、子どもたちの息がピタリと合い一糸乱れぬ演奏ができるのは、仲間を信じて太鼓をたたいたからだとも話していた。

すばらしいテクニクに加えて「人の気持ち」という極上の隠し味があつてこそ良いものではないかなあと納得しながら会場を後にした。さて、来年はいろんなお店が並び「びつくり市」をゆつくり探検して稲城をもっと知りたいと思う。

(塩川)